

校長 鈴木 恵一

5.0 社会を生きる

Society5.0 が到来します。当初、何を言っているのか私にはよくわかりませんでした。わが国がめざすべき未来の姿として提唱されている第5の社会とは何なのでしょう。それは狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、人類にとって5番目の社会だということです。これから知ったふうなことを書こうとしている私自身、完全にはイメージし切れていません。

第1から第4までの社会は有意味名称であり、これまでの学習や体験によって理解しています。それに比べ「第5の社会」という言葉自体からは具体的なものがイメージできません。

内閣府の解説を読むと第5の社会とは「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のことであり、すべての人とモノがつながり、人工知能（AI）によって様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで課題や困難を克服します……（後略）」となっています。

私は「なんだそれ？」と思わず二度読みしました。これは科学技術基本法に基づき5年ごとに改定される「第5期科学技術基本計画」で登場した概念です。そこでは「超スマート社会」という名称も使われています。英語の smart には「賢い、気の利いた、洗練された」といった意味があります。では、何がどうスマートなのか。「ワシはスマートじゃなくていい。人工知能やロボットなんかに支配されんぞ！」と

抵抗感を持つ人もいることでしょう。小型コンピュータともいえるスマートフォン所有率（15歳以上）が79%の現在、本当の意味での賢さ、スマートさを追求しなければいけません。学びや労働の方法と質もどんどん変わっていくことでしょう。私たちはなぜ学び、どう学ぶのか。そしてなぜ働き、どう働くのか。さらに、生きるとはどういうことなのか、どう生きていけばよいのか。

人は未経験なことには用心深くなるもので新しい環境に飛び込むのも勇気がいります。その一方で幸福を求めていろいろな改善・改革にチャレンジします。人類は「生きる」ということ自体を哲学や宗教、生物学・医学、心理学、社会学など様々な分野で答えを求めようと探究を繰り返し新しい社会を創造してきました。私たちは幸福を得るために問いを立て、時に疑問を抱き、時に苦悩し、また時に恥も外聞もなく自分の都合や思惑を捨てて必死にならなければいけないことがあります。新しいことは疑問だらけで怖いのです。ストレスにもなります。それでも私たちは自分の足で立ち自分の頭で考え、勇気を出して前へ進まなければならないのです。さあ、同志諸君、共に歩みを進めてゆこう！